ESD大賞について
啓発、普及、深化、継続のために

すべての教育は持続可能な社会の構築のために

㈱教育新聞社
NPO法人
日本持続発展教育推進フォーラム
齊藤　英行

「教育新聞」について

我が国唯一の週２回刊の全国教育専門紙

企業理念

〇私たちは、教育こそが「人づくり」の原点であることを深く認識し、報道を通じてその一端を担っていきます。

〇私たちは、報道による「国づくり」の理想を掲げ、政・官・民・学の橋渡し役としてよりよき社会の構築・実現を目指します。

〇私たちは、「人間尊重」を基本とした企業として歩むと同時に、時代を先導する新しい教育・文化の創造に貢献します。

↓

教師の研究と修養に資するために　教師に役立つ、教師が使える「教育新聞」

学校教育におけるESDの現状と課題

- 環境教育、国際理解教育等の実施率の高さ
- 実際の内容＝緑化運動、リサイクル活動、省エネ
- 学年を通した系統的な実践の少なさ
- 「ESD」という言葉、考え方の普及度の低さ＝たとえ、言葉は知っていても、「単なる環境教育」程度の認識でしかないのが実態
- 授業時数の確保、教科・領域の扱い
- 多岐にわたる学習内容→指導者不足
- 指針がない
- ユネスコスクール　６１５校！！

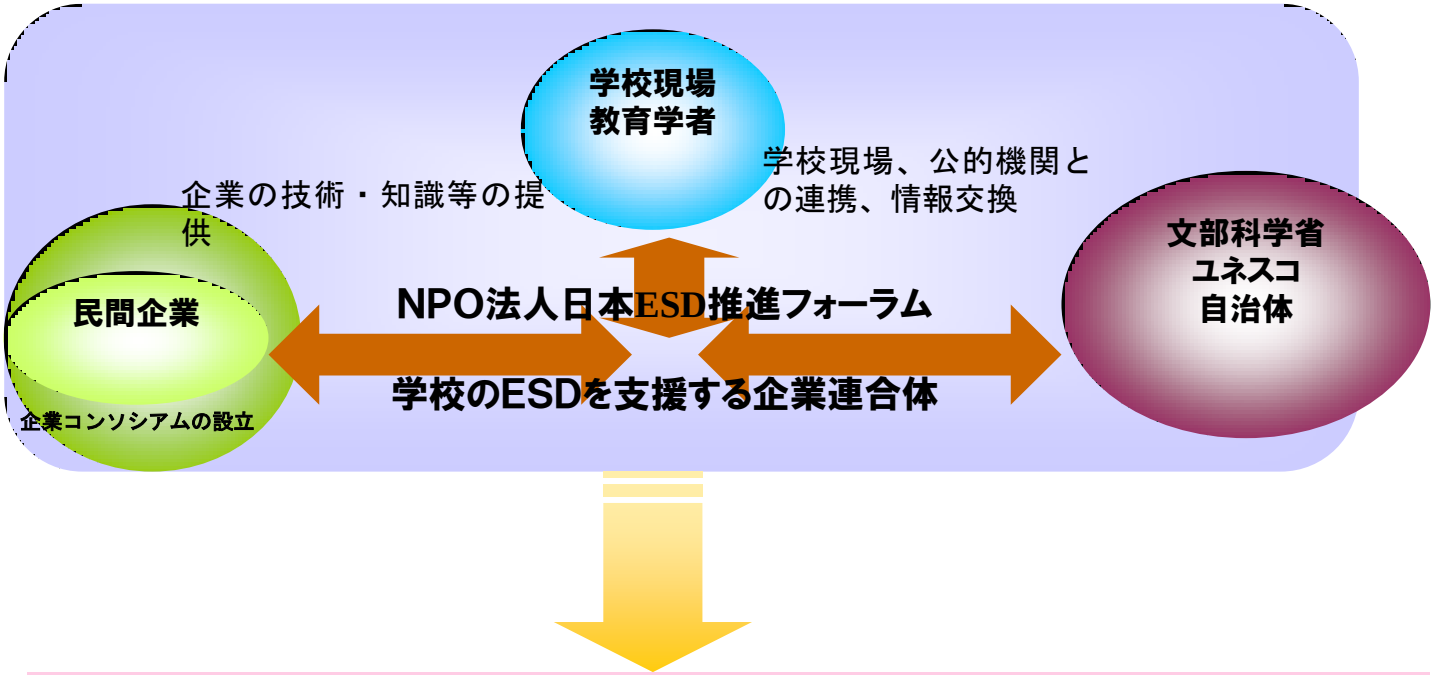
日本持続発展教育推進フォーラム

- 文部科学省、他の行政機関、学者、教師、企業、マスコミなどの協力のもと、学校教育にESDを普及するために設置
- 国語、社会、算数・数学、理科、外国語をはじめとする各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、学校で行われるすべての教育活動が、持続可能な社会の構築に向けて実践されることを目指す
- 学校現場で信頼と実績のある教育新聞社のネットワークの活用
- 学校教育をターゲットにした唯一の組織

学校に浸透、普及させるために

- 教師集団のESDに対する理解の共有
- 実践をコーディネートするリーダー教師の育成
- 校長（教育管理職）の理解、リーダーシップの発揮
- 学校と保護者、地域（多様な団体）、さらには自治体との豊かな連携
- 学校を超えたネットワークの形成

日本ESD推進フォーラムは、学校教育へのESD普及展開のために
産・官・学の連携の橋渡し役として活動していきます。



〔学校への多彩な活動と企業のCSR活動の展開〕

- 教材の作成と普及、セミナーなど研修機会の提供
- 実践のための相談活動・普及活動の実施
- 企業の持つ最新の情報や技術を教育の現場に生かし、行政や学校現場と連携して、継続的な社会貢献活動を実施
- 企業コンソシアムの設立

NPO法人
日本持続発展教育推進フォーラムの取組

第1回ユネスコスクール全国大会ー持続発展教育（ESD）研究大会

開催日　：　平成21年11月14日（土）
会場　　：　渋谷教育学園渋谷中学高校（東京都渋谷区渋谷）
テーマ　：「持続可能な社会の担い手をはぐくむために」
参加人数：　３００人

第2回ユネスコスクール全国大会／持続発展教育（ESD）研究大会

開催日　：　平成22年10月30日（土）
会場　　：　国立大学法人 宮城教育大学（宮城県仙台市）
テーマ　：「ESDで育てる“生きる力”」
参加人数：　４００人

第3回ユネスコスクール全国大会／持続発展教育（ESD）研究大会

開催日　：　平成23年11月12日（土）
会場　　：　国立大学法人 東京海洋大学 品川キャンパス（東京都港区）
テーマ　：「ESDの深化と拡充」
参加人数：　５００人

第4回ユネスコスクール全国大会／持続発展教育（ESD）研究大会

開催日　：　平成25年1月26日（土）
会場　　：　国立大学法人奈良教育大学
テーマ　：「ESDの実践上の課題解決に向けて」
参加人数：　６００人

第5回ユネスコスクール全国大会／持続可能な開発のための教育（ESD）研究大会

開催日　：　平成25年12月１日（日）
会場　　：　東京都多摩市　多摩永山情報教育センター
テーマ　：「ESDの更なる発展を目指して―2014年ユネスコスクール世界大会を見据え」
参加人数　：　８００人（予想）

「持続発展教育（ESD）大賞」

［設定の趣旨］

現代に生きる私たちは、目先の利益のみのこだわるのではなく、持続可能な社会の構築に向けて、いますぐに私たちにできることを学び、そして、実践していくことが求められるようになりました。持続可能な社会の構築に向けて的確な行動ができる次代を担う人材の育成が重要な課題となっています。

その人材育成のためには、持続発展教育（ESD）が学校現場において正しく理解され、さらにそれに基づいた望ましい実践が普及されることが強く求められています。

当フォーラムでは、小中高校を対象に持続発展教育の実践研究事例を募り、実践を奨励するとともに、その輪を広げ、学校における持続発展教育の発展に寄与することを願い、「持続発展教育（ESD）大賞」を設定いたします。

正しいESDの概念に基づいた教育が我が国の初等中等教育段階の各学校で積極的に実践され、持続可能な社会の構築に参画する人間づくりを推進することが、将来の我が国の繁栄、平和、幸福への道を拓くことにつながると確信するものです。

［中央審査委員］

有馬　朗人　（NPO理事長　元文部大臣
東京大学名誉教授　武蔵学園学園長）

角屋　重樹　（日本体育大学教授）

北　　俊夫　（国士舘大学教授）

齊藤　英行　（㈱教育新聞社取締役編集局長）

佐野　金吾　（元全日本中学校長会長）

田村　哲夫　（日本ユネスコ国内委員会会長
渋谷教育学園理事長　中教審副会長）

文科省国際統括官付

［募集内容と実践研究対象］

「持続発展教育（ESD）大賞」設定の趣旨に基づいて、持続可能な社会の構築に向けて的確な行動ができる次代を担う人材を育てる実践研究事例の報告を募ります。

［対　　象］

全国の小学校、中学校、高等学校を対象とします。

○実践研究の対象

小学校、中学校、高等学校における持続発展教育（ESD）の実践事例報告であること。

① 持続発展教育の全体計画や年間指導計画の作成、または改善及び評価に関わる実践研究。

② 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間に関わる持続発展教育の実践研究。

③ 学校経営、学年経営、学級経営に関わる持続発展教育の実践研究。

④ 学級活動、児童会･生徒会活動、クラブ･部活動、学校行事に関わる持続発展教育の実践研究。

⑤ 持続発展教育における教材･教具の工夫や開発についての実践研究。

⑥ 持続発展教育における家庭、地域社会、行政、民間企業、関連する諸機関との連携に関する実践研究。

［顕彰と掲載］

〇顕彰

　応募いただいた事例の中から、中央審査委員の厳正な審査によって、優秀な事例を下記の通り顕彰いたします。

持続発展教育（ESD）大賞

・大賞校　　1校（すべての校種から1校）
・ユネスコ・スクール最優秀賞校　1校
・小学校賞　　1校
・中学校賞　　1校
・高等学校賞　　1校

〇教材（実践研究事例集）の作成と配布

　顕彰校には、実践研究事例の詳細を執筆していただきます。冊子にまとめ、持続発展教育の優れた教材として、ユネスコ・スクールをはじめ持続発展教育に興味をもつ学校に配布したします。

第1回持続発展教育（ESD）大賞 受賞校

持続発展教育（ESD）大賞　東京都江東区立東雲小学校

ユネスコスクール最優秀賞　宮城県気仙沼市立唐桑中学校

小学校賞　奈良県奈良市立済美小学校

中学校賞　静岡県伊豆市立天城中学校

高等学校賞　岡山県立矢掛高等学校

第2回持続発展教育（ESD）大賞 受賞校

持続発展教育（ESD）大賞　奈良県奈良市立柳生中学校

ユネスコスクール最優秀賞　宮城県気仙沼市立階上中学校

小学校賞　　広島県福山市立駅家西小学校

中学校賞　　東京学芸大学付属国際中等教育学校

高等学校賞　　秋田県秋田市立秋田商業高等学校

審査員特別賞　千葉県市川市立稲越小学校

第3回持続発展教育（ESD）大賞 受賞校

持続発展教育（ESD）大賞　東京都江東区立八名川小学校

ユネスコスクール最優秀賞　東京都大田区立大森第六中学校

小学校賞　宮城県角田市立東根小学校

中学校賞　奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校

高等学校賞　愛知県立豊田東高等学校

審査員特別賞　宮城県気仙沼市立面瀬小学校

◆受賞校からのコメント（第3回）

▽持続発展教育大賞…東京都江東区立八名川小学校

加盟当時を思うと、このような会場で賞を頂けることは誇らしい。持続発展社会の実現に向け、より良い教育をつくり世界に発信していく仲間として、皆さんと力を合わせ活動を続けたい。

（手島利夫校長）

▽ユネスコスクール最優秀賞…東京都大田区立大森第六中学校

加盟以来、人と人、人と自然のつながりを中心に様々な活動を行っている。この取組をさらに持続・発展させるために教員に広く伝えると共に、皆さんと共に力強く歩みたい。

（税所要章校長）

▽小学校賞…宮城県角田市立東根小学校

加盟したことにより、こうした教材を作成できた。持続発展学習を推進しようという気持ちが、学校教育自体も持続発展させたと感謝している。

（馬場達也教頭）

▽中学校賞…奈良県奈良市立月ヶ瀬中学校

ESD の視点で様々な活動を捉え直し、本校の一本の柱とすることができた。今後もこの活動を持続し、さらに発展させたい。

（進藤宰校長）

▽高等学校賞…愛知県立豊田東高等学校

地域連携、環境教育、国際理解教育を柱にESDを行い、英語の教科指導で受賞させていただいた。今後も継続して積極的に取り組みたい。

小瀧逸子主任）

▽審査委員特別賞…宮城県気仙沼市立面瀬小学校

200 2年から環境教育に取り組んでいる。震災を通し、子どもを未来と繋いでいく仕事の大切さを感じている。今後もESD を推進したい。

（岩槻仁教諭）

持続発展教育（ESD）大賞

奈良県奈良市立柳生中学校
渡崎　信高

1．見えざる手にみちびかれて

奈良市東部の山間に位置する本校校区には、春日大社の荘園に始まる古い歴史と、山里の営みの中で育まれた水と緑あふれる自然がある。東西６km南北８kmの広大な旧柳生村全域に相当する校区内の全世帯数は468、人口は1,278人に過ぎない（平成23年11月１日現在）。少子高齢化の進行は著しく、校区内の小中学校の児童・生徒は合わせて60名に満たない。この状況が今後も継続すると見込まれるなかで、自治連合会長を先頭にして、地域の活力の保持と展望の構築に多くの関係者が有形無形の努力を重ねている。

奈良市は「地域で決める学校予算事業」を平成22年６月に開始した。事務局である柳生中学校は同事業の地域分予算を活用し、摩利支天山に「学校を核とした祭りと和みの場を再生し、柳生地区の次の50年を展望したシンボルとして甦らせる（サクラプロジェクト）」ことを構想した。

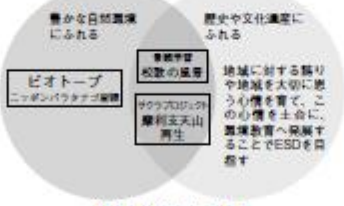
摩利支天山と校庭での大運動会仮装行列（約30年前）

本校のESDの構想図を見ると、緻密な計算の元に展開しているように見える。しかし、これはあくまで取組みを整理した結果で、一昨年までは、ユネスコスクールとは名ばかりであった。

平成22年７月に、学校支援地域本部事業の全体会で「地域で決める学校予算事業（地域分）」としてサクラプロジェクトを提案した時、誰もがこの事業の成功を危ぶんだ。

伐採前の摩利支天山（中学校の校地）　平成22年８月

地域の協力者の力を借りて伐採が軌道に乗る頃から、職員間で本校生徒の課題を巡る議論が活発になってきた。全校18名の生徒の多くは家族的な雰囲気の中で生活し、物事にまじめに取り組むことができる。その反面、「保・小・中を通じての少人数の同一集団での成長は、人間関係の固定化による軋みをもたらしている。また、自尊感情の育成不全や自己表現力やコミュニケーション能力の乏しさがさまざまの面でマイナスの効果を与えている。」などである。



柳生中学校のＥＳＤ構想

これらの課題に本源的考察を加えると、誇り守るべき地域の歴史や文化遺産、豊かな自然が子どもたちの心に残っていないという現実が浮かび上がる。そこで、地域の歴史や自然を再発見・再評価することで自信と誇りを呼び起こすことを考え、平成23年度研究主題を「ESDの視点を核にした教育活動の展開」とした。

本校が従来取組んできた小集団を活かした生徒会活動や福祉体験・職場体験などは、活動として外へ向うものの自己満足で完結する活動となっていた。これらを開かれたもの・外部へつながっていくものと転換するため、外への方向性を付与すべく「地域に学校の元気をradiate!（輻射（ふくしゃ））」を提唱した。

学校では構想図の三つの取組みに加え、外部講師による体験活動、奈良ASPネットワークの活動への積極参加、ESDの校内研修などに全校体制で臨み、研究主題の具現化を模索している。まさに「気がつけばESD」へと、invisible hand（見えざる手）に導かれた想いがする。

2．サクラプロジェクト　摩利支天山再生

校地の摩利支天山は、頂上から北へ笠置山に向かって一望しうる景勝の地であり、柳生藩陣屋と家老屋敷の中間に位置する要害である。その名前は、江戸時代の初めに柳生宗在が頂上に武道の神である摩利支天の祠を造営したことに由来する。このため、摩利支天山は特別な場所として地域住民による手入れが行われる桜山であった。時代の推移の中で雑木山と化した摩利支天山の再生は、平成22年８月より生徒の手で始まった。

左上が摩利支天山　中央は中学校旧校舎　右上には家老分家

地域の年配者の共感を呼び起こしたこの取組みも、当初は作業に加わらなかった女子生徒には不評であった。雑木山しか知らない彼らには、自然破壊としか受け止められなかったのだ。

生徒たちが自分たちのものとして摩利支天山に親しむ取組み、摩利支天山から感動する仕掛けを考えていくことが、次のステップとして求められた。

生徒が積極的に取り組むか、全職員の協力が得られるかという不安の中、平成23年３月、生徒・

生徒による摩利支天山頂上の伐採作業　平成22年８月

生徒・職員・地域住民による摩利支天山への山桜植樹

職員・地域住民による46本の桜の苗木植樹を行った。植樹をきっかけに、生徒たちは自分たちの山として眺め、登る機会も増えた。職員の話題に数多く摩利支天山が登場し、何人もの地域の方から感謝の言葉が寄せられた。また、頂上に観光客の姿が増えるにつれ、生徒たちの言葉の端々に植樹活動への自信が感じられるようになった。

朽ちた株からの桜の芽生え

斜面に笹百合の姿がみられた

さらには地域の保育園に呼びかけ、園児たちが摩利支天山の豊かな自然に親しむようにもした。

山頂で木の実をひろって遊ぶ柳生保育園児　平成23年10月